

I. A. U. の流星部長より

国際天文同盟の流星學部長オリヴィエール Olivier 氏からの通知によると、來九月米國ケンブリヂ市ハーバード大學で開かれる同盟第4回總會に提議される問題は下の如くであると。

(1) 若し國家主義的の立場から研究者が其の報告を各自の國語で發表する必要があるならば、少なくとも其の文の要領を英佛獨三國語の何れかで書いて貰ひたい。

(2) 相互に關係ある學術との協力を出来るだけ行ふこと。殊に之れは隕石の構造の研究に於いて必要である。

(3) 幸ひに流星寫眞を撮影し得た人は一刻も早く其の結果を發表し、他の研究者を利すべきである。

(4) 流星の速度を觀測し得る新舊諸種の方法を試み、其の結果を早く發表されたい。ツアイスのプラネタリウムに於いて人工的流星により種々の試験をするのも有益と思はれる。

(5) 流星の(殊に火球の)觀測結果を集中する中央局を各國毎に作られたし。

(6) 總ての望遠鏡觀測者(殊に視野の廣い機械の持ち主)は望遠鏡の流星の記録をせられたし。之れの報告用紙は申込み次第送附す。

(7) 流星天文學上の術語を統一する必要あり(少くとも英語だけでも)

(8) 隕石の新總目錄が望ましい。

(9) フォン＝ヌル氏ホフマイステル氏共作の「火球目錄」の補遺を五年毎に作られたし。

(10) 流星輻射點の新目的は近い將來に作製するに及ばない。何となれば其の内容に關し意見の一致が不充分であるから。

(11) 米國アリゾナ州の流星坑の南壁に埋没されて居る大量が近年の地球物理學的調査や坑内作業により明らかとなり、又、1908年シベリヤに落ちし流星の研究が不充分なるため、又、北アフリカのアドラ I Adrar に大量の流星が再發見されたため、又、此等三ヶ所に於ける研究が流星天文學に貴重なる價値を與へるため、又宇宙塵の研究材料が要求せられるため、流星委員會に下の件を希望す。

a) アリゾナ州の隕石坑の研究を促進し、今尙ほ現存せる質量及び現状を明確に立證すること。

b) 充分の準備ある研究隊をシベリヤに派遣し、1908年6月30日の隕石大落下の邊を探險せしめること。

c) 佛國政府は、北アフリカのアドラ I にある大隕石を再發見し、充分に研究するため努力されたし。後れば益々此の事業を困難ならしめるだらう。

d) 極地圏にあつて國際極地觀測に従事する場所、特にグリーンランドや、南極大陸にては、空中塵の集積を其のプログラム中に加へ、其の中より宇宙物質を分析すること。以上